

一般社団法人 愛知県言語聴覚士協会

# 第14回 愛知県言語聴覚士会総会・ 学術集会開催報告

## シンポジウム“失語症の真の理解” 当事者 池田博之さんは語る

### ◆全体報告

令和元年6月16日、ウインクあいちで第14回愛知県言語聴覚士会総会・学術集会を開催し「地域で生きる」を支える言語聴覚士」をテーマに約400名が集いました。

本村和也先生(名古屋大学医学部附属病院)による特別講演「言語野に関わる新しい神経線維について」では、覚醒下手術により明らかとなった言語機能に関わる白質線維について術中映像を用いて解説していただきました。辰巳寛先生(愛知学院大学)の教育講演「Multi-modality aphasia therapy (M-MAT)」では新しい失語症の訓練法を学びました。

県士会報告では、コミュニケーション障害支援局の3名が「失語症者向け意思疎通支援事業」「失語症者向け意思疎通支援者養成講習会」「失語症者へのアンケート結果」を報告しました。午後の森田秋子先生(鶴飼リハビリテーション病院)座長のシンポジウム「失語症者に対する“真

大会長 鈴木 美代子(総合犬山中央病院)

の理解”」では貴重な体験報告を聞き感銘しました。

一般演題では、嚥下、小児、吃音、失語・高次脳の分野から12題の発表がありました。午前のシンポジウム「地域で支える子どもの育ち」では、大岡治恵先生(日本福祉大学中央福祉専門学校)を座長として3名の方から病院・教育産業・訪問での小児支援の現状をご報告いただきました。午後の公開講座では松浦直己先生(三重大学)より「発達障害のある子への認知行動療法の応用」について具体的な話を聞きました。

本学術集会は失語・高次脳の分野でも小児の分野でも医療と地域との連携が求められていることの理解を深めることができました。また、ポスター、抄録集、公開講座案内には失語症の方の応募作品を掲載し当事者の社会参加の機会となりました。



シンポジウム “失語症の真の理解”



中橋 聖一愛知県言語聴覚士会会長



鈴木 美代子大会長



シンポジウムを終えて、名古屋の夜 関係者一同

## ◆「シンポジウム“失語症の真の理解”を終えて

座長 **森田 秋子** (鶏飼リハビリテーション病院)

池田博之さん(当時47歳)という一人の働き盛りのサラリーマンが、病に倒れ失語症を生じました。シンポジウムは彼と、彼を支援した各病期の言語聴覚士と、東京海上日動という会社が織りなす物語です。

急性期を担当した阿保修平さん(名古屋医療センター)、回復期を担当した伊藤梓さん(鶏飼リハビリテーション病院)、生活期を担当した齋藤珠美さん(木村病院)、中田三砂子さん(名古屋市総合リハビリテーションセンター)が、池田さんの発症から3年の失語症の経緯と支えた言語聴覚士の思いを伝えました。

東京海上日動は、将来有望だった若手社員の発病を憂い、残った失語症ともども彼の復帰を進め、以前の仕事ができなくなった池田さんと彼を取り巻く人々に、「彼にしかで

きない仕事を探せ」という命が出されました。

彼を愛する上司、同僚たちと、相談を受けた私たち言語聴覚士が力を合わせ、「笑顔の授業」が誕生しました。中等度の失語症が残存する池田さんの言葉は重く、時に朗らかで希望に満ち、多くの人の心を動かし涙を誘います。本シンポジウムは池田さんと関係者の努力を称え、ここから始まる「笑顔の授業」のスタートでした。

多くの人に、「失語症」「言語聴覚士」を理解してもらうために、池田さんの「笑顔の授業」は続きます。皆さんの地域、施設からお声がかかるのをお待ちしております。

「笑顔の授業」へのお申し込み、お問い合わせ先はこちらまで  
E-mail : egao@japanslht.or.jp

## ◆失語症者の復職を成し遂げるために

東京海上日動火災保険(株) 東海・北陸業務支援部長 **流石 巖**

平成30年2月に池田次長が職場復帰すると聞き、新たに付与する業務について、社内各部の協力を得て知恵を絞りました。まずは会議に出てもらって業務に徐々に慣れてもらおうと考えましたが、失語症者にとって複数人数での会議が難しいことを理解していませんでした。池田次長の「会社に貢献したい」という思いに応えたい一方で、我々の部の主な業務はデータ処理や人事関連作業であり、大量の文字を読み書きする必要があります。池田次長の担当業務については、本当に悩みました。会議参加を断念し、定型作業を付与したのですが、どうしても飽きが来てしまいます。池田次長にしかできない業務とは何か、彼が今後の会社人生でやりがいを持ってできる業務は何か、今一度考

えました。

折しも鶏飼リハビリテーション病院の森田先生から「言語聴覚士を目指す学生向けの講演をしてほしい」とのお話を頂き、初めて池田次長が学生の前で講演を行いました。これがきっかけで、彼が自らの経験を語り、失語症者へ勇気を与え、言語聴覚士の研究にも寄与することが、彼のライフワークになるのではと考えました。平成31年4月、講演の名称を正式に「笑顔の授業」と組織決定し、池田次長を推進リーダーに任命、今後全国を回って「笑顔の授業」を展開します。ここに辿り着くまでに、多くの言語聴覚士の方々に多大なご支援を頂きました。この場をお借りして心からお礼申し上げます。

## ◆当事者の思い…ありがとう！もっと頑張ります！

東京海上日動火災保険(株) 東海・北陸業務支援部担当次長  
兼 人事企画部人権啓発・ダイバーシティ推進室参事

**池田 博之**

入院や外来の時、STのリハビリに「とにかく、ついていけなくっちゃ」と必死でした。

なんで出来ないのかと思い、へこんだりしましたが、でも「こんなことで負けないぞ」と毎日その繰り返しでした。STがいると頼もしかったです。

復職をしましたが、「会社のお役に立ちたい」と思っても、見つかりませんでした。

その時、会社が人権啓発の一環として、講演活動「笑顔の授業」をはじめ、少しでもトンネルの光が見えました。

思い返すと、STと向き合った長い時間が走馬灯のように頭を巡ります。

STにも会社にも、感謝しております。ありがとうございました。



池田 博之氏